



～みかんの家は、大家族～

みかんの家ならではの乳児異年齢の生活は、何気ないふとした生活の一場で微笑ましい瞬間に出会えます。泣いている0歳児を気にする2歳児、2歳児がやっていることを同じようにやりたい1歳児の自己主張。2歳児は、自分のことは置いといて、“やってあげたい”と、“じぶんでやる”のオンパレード！みかんの家の子どもたちは、大家族の兄弟げんかのように、自分の思いをしっかりとぶつけ合っているのです。毎日、人との関わり方、すなわち“社会”をしっかりと体験しているのだと思います。そんな、少人数なのに賑やかでパワフルなみかんの家の子どもたちと、たっぷり楽しいことをして過ごしていきたいと思います。

また、子どもの育ちについて、気軽に保護者と保育者が話し合えるのも、みかんの家の良さだと思いますので、ご家庭での様子もたくさん教えて下さいね！



いないいないばあ！



きゅうりができた！

〈きゅうりができるまでの発見！〉

- ・ちいさいきゅうりは、とげとげがいたい！
- ・はっぱは、けがはえてざらざらしている

〈なすも育てています〉

他クラスの畑に、小さいなすができていました。

A：「あかちゃん！」

保育者：「赤ちゃんみたいに小さくてかわいいね。」

B：「“おとうさんなす”になるかな？」

小さいは“赤ちゃん”、大きいは“お父さん”を連想するんですね。

～自然に触れて育つ体と心～

子どもたちが、どろんこや水遊びで沢山楽しんだ分、毎日洗濯物がいっぱいですよ。ご協力をありがとうございます。泥や、水も、木も風も、天気も、そして人間も自然の一部であり、子ども時代はその環境を意識した中での育ちが必須です。というのも、AIが進歩し、調べればすぐに情報が手に入り、簡単に知識が得られる時代になりました。だから、あえて子ども時代に知識の詰込みの意味はあるのかを、考えたいですね。

そうすると、人間にとって大事になってくるのが、経験して感じ取る力ではないでしょうか。

“たのしい、おもしろい、ふしぎ！”は自然の中に豊富にあります。そこで感じたことを伝え合いたいというのが人の言葉の起源とも言われています。子どものまなざしを丁寧に感じ取り、興味を知り、一緒に楽しんだり面白がったり、また大人が楽しむ姿を見せることで、やってみたい、できるかも、失敗してもいいよねの気持ちの中で、挑戦する心や、粘り強さが育まれます。不思議だなと感じた心は、探究心となり、自ら知識を得ようとする力となるのです。それは大人になって必要な体や心の土台です。子どもの力量の少し先を見極めながら、そんな力を育みたいと思っています。ご家庭でもぜひ、お子さんとの自然や生き物に触れる経験を楽しんで下さい。



身軽な C ちゃんが登れそうな木がありました。登り方を教えると、すいすいと上手に登りました。



園庭の鉄棒にぶら下がって遊んでいた D 君に、丁度良い木がありました！
しっかり力を使っています。

砂遊びが大好きな E ちゃん。外に出ると、いい笑顔！



みかんの家で、🐶かたつむりを飼っていました。

～朝～かたつむりのうんちの色を観察…。

保育者「人参食べたら、オレンジ色だよ～」

F「ほんとだ！」

～給食後～

F「スイカたべたから、(F ちゃんの) うんちあかくなるかな？」
(かたつむりのこと思い出したのね。)

保育者「そうだね！うんちが出たら見てみてね。」

布団に入り、すぐに寝付けない F ちゃん、私の腕を触る。

F「りえさんの、うで、あついね。」

保育者「今日暑かったからね。」

F「つめたいお風呂にはいりなさい。F ちゃんは、
あったかいお風呂にはいるね。」

できれば、私も温かいお風呂がいいわと思いましたが、F ちゃんらしい口調と優しさに、心の中でくすっと笑いました。